

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ~ 令和8年3月13日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 I. 教育課程、教育環境整備に関すること ③中学校教育を実施するに必要な、日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方
調査研究のねらい	<p>令和7年2月末の横浜市の住民基本台帳人口は、3,749,922人、そのうち外国人は、127,678人と約3.4パーセントを占めており、その割合は月を追うごとに増加している。</p> <p>令和7年2月時点で、本市の夜間中学である横浜市立蒔田中学校夜間学級の生徒数は22人であり、15歳から68歳と幅広い年齢層に加え、外国と繋がる生徒が多くその2/3以上が日本語指導を必要としている。</p> <p>このような現状を鑑み、蒔田中学校夜間学級においても、日本語指導について重点を置いた取組を継続している。学習方法としては、課題別学習の時間を設け、個人の課題に応じた学習を行うことや読書活動、本の紹介、漢字テストの実施などにより、日本語を中心とした基礎学力の向上に努めている。</p> <p>本市と同様に各自治体においても、日本語を母語としない方向けの日本語指導の重要性がさらに増していく現状を考え、夜間中学未設置の自治体へ指針となるべく、日本語指導に力を入れた取組を実践し、その結果を分析して記録としてまとめ、外部へ提供するなどにより、日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方の充実につなげることを目的とした本調査研究を行っていく。</p>

<p>調査研究の成果</p>	<p>【横浜市・横浜市立蒔田中学校夜間学級】</p> <p>生徒の現状に適した教育課程及び効果的な学習指導の実践に繋げ、更なる教育活動の充実を図るために、本市におけるこれまでの夜間学級の経緯を振り返り、次の内容について調査研究を行う。</p> <p>また、今後の夜間学級の更なる充実のためにも、本市における夜間学級の研究紀要を作成し、一年間の研究の成果をまとめ、次年度以降の実践に繋げていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本市における夜間学級の取組 2 習熟度別少人数授業の在り方 ～毎月の担当者会議で情報共有～ 3 日本語補助教材の選定 ～ICT教材についても積極的に活用～ 4 学習支援サポーター（通訳支援スタッフ）を活用した教育活動の在り方～学習支援サポーターとの意見交換を設け、どのように日本語を活用していくかの確認～ 5 横浜市日本語教室（集中教室）や日本語拠点施設等（ひまわり）との連携による成果と課題～情報共有、連絡相談を定期的に行う～ 6 これからの夜間学級に求められること（ハード面・ソフト面）の環境整備～常に効果のある学習環境の整備に努めるとともに、YSSWIによる生徒の生活支援 7 日本語能力試験（JLPT）取得を目指した指導の在り方 ～常に目標をもち、学習する姿勢を育成～ 8 効果的な漢字学習の在り方 ～補助教材の有効利用と教材への研究実践～ 9 日本語習得を目指した読書活動の在り方 ～教職員による本の紹介～ 10 夜間中学における教職員の人材育成 ～神奈川県内夜間中学3校による合同研修会実施～ 11 食育等による生活力支援 <p>【4月】</p> <p>○設置校における調査研究テーマの共有</p> <p>・昼間の職員を含めた全職員参加による研修を実施し、本調査研究の意義と役割を学校長より周知</p>
----------------	--

・地域関係者や有識者が参加する学校運営協議会や学校・家庭連携協議会等において本調査研究の計画を伝え、必要に応じて意見集約や協力を依頼する。

【成果】

・地域関係者、有識者の協力で夜間学級の運営がスムーズ、スマートになった。総合防災訓練を行い緊急時の行動を学習した。

○学級担任との教育相談（二者面談）

目的：一人ひとりの生徒の現状について把握し、自己実現に向けた手立てについて検討する。

内容：日本語と英語の理解度について、横浜市日本語教室（集中教室）への参加について

【成果】

・横浜市日本語教室への参加を通して日本語習得の契機となり、夜間学級での学習においても理解促進の一助となった。

○補助教材の選定

・生徒の学力、日本語の習熟度等に応じた補助教材を検討、決定

【成果】

・日本語以外の教科でも補助教材の有効性が認められた。継続的に行えらるとなるとよい。

【5～7月】

○夜間学級担当者会の実施

・習熟度別少人数授業の在り方について

・学習支援サポーターによる支援の方法について、効果的な支援

方法の検討

・各教科担当における日本語指導方法の確認

・日本語能力試験（JLPT）取得を目指した指導の在り方

・効果的な漢字学習の在り方について

・日本語習得を目指した読書活動の在り方について

【成果】

・主に言語支援を行う学習支援サポーターについて、オーバーティーチングなど生徒の主体性の育成に十分に結びつかない状況もみられた。今後は、言語支援に加えノウハウを持つ教職経験者等の配置が望まれる。

○日本文化、日本における社会生活などの効果的な体験活動の実施

- ・遠足（浅草）
- ・芸術鑑賞（歌舞伎）

【成果】

・芸術鑑賞（歌舞伎）において、積極的に取り組めない生徒がいた。（日本語の理解力と表現の難しさ）遠足は事前・事後指導のもと積極的な取組を見せ、日本文化の学習に役立った。

○教育委員会事務局担当者と設置校との定期的な情報交換

・進捗状況の確認と設置校への積極的支援のため月 1 回程度の学校訪問を実施

【成果】

・教育現場の課題点、疑問点を委員会と共有して今後の運営の改善につなげるための協議をした。

○夜間中学視察対応に伴う日本語指導の状況確認と取組実践についての意見交換（各月 1 回程度想定）

【成果】

・教科指導の中で、日本語力の現状を共通理解し、個別最適な学びとなるよう教材や授業を工夫した。

【9～12月】

○夜間学級担当者会の実施 研修会の実施

- ・習熟度別少人数授業の在り方について
- ・学習支援サポーターによる支援の方法について、効果的な支援方法の検討
- ・各教科担当における日本語指導方法の確認
- ・日本語能力試験（JLPT）取得を目指した指導の在り方
- ・効果的な漢字学習の在り方について
- ・日本語習得を目指した読書活動の在り方について
- ・横浜国大教職員大学研究員との意見交換会
- ・横浜南ラウンジとの情報交換 等

【成果】

・非常勤教諭に対し、評価および評定の考え方や記入方法に関する研修を実施し、共通理解を図ることができた。

・漢字テストを週 1 回実施しているが、テスト前の 15 分間の学習のみで終わっており、漢字学習の定着には至っていない。また、家庭学習の習慣も見られず、今後の課題といえる。

・横浜国大教職員との意見交換会を通じて、他の夜間学級の取組について情報を得ることができ、大変参考となった。

	<p>○学級担任との教育相談（2者面談）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習について、長期休業後の日本語習熟度の確認 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中において、生徒の学習習慣が十分に形成されていない実態を把握した。 <p>○日本文化、日本における社会生活などの効果的な体験活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会見学、修学旅行（日光）、芸術鑑賞 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習と体験学習を通じて、日本の文化に触れる機会を確保することができた。 <p>○3年進路面談実施（3者面談）</p> <p>○高校進学希望者への日本語教室面接練習会への参加指導等</p> <p>○高校進学希望者の学校説明会、授業見学・体験などの引率</p> <p>○教育委員会事務局担当者と設置校との定期的な情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭（9月）や文化祭（10月）等における行事を通じた日本語指導の成果と課題について意見交換 ・上半期の調査研究を踏まえた中間報告会を実施 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生全員が進学希望であり、高校説明会に引率して進路の選択を行うことができた。 ・日本語教室面接練習会に参加し、蒔田中学校の職員以外の面接官による指導を受けることで、緊張感をもって面接練習に取り組むことができ、コミュニケーション能力の向上に役立った。 <p>○夜間学級担当者会の実施、職員研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間の振り返り、年間日本語指導計画の作成 ・効果的な漢字学習の在り方について ・日本語習得を目指した読書活動の在り方について <p>○学級担任との保護者面談（3者面談）</p> <p>○日本文化、日本における社会生活などの効果的な体験活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書初め、3年生を送る会、卒業証書授与式等の実施 <p>○研究紀要の発行、配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの文集の作成・発行、この1年間の日本語能力の定着・向上、一人ひとりの頑張りや思いを確認
--	---

	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の確保のため時程を変更し、日本語に触れる時間を増やした。紀要は翻訳機能の活用では学習効果が十分に得られない場面があったため、マンツーマンで作文指導が必要な生徒がいた ・面接を通して家庭状況を把握し、家庭学習の実施が十分でない実態を確認した。 <p>○夜間学級入級説明会実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間学級紹介（授業、行事、学校生活、費用、持ち物等） ・プレオープンスクール説明 ・入級予定者の日本語能力の確認 <p>○プレオープンスクール実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校生活の体験 ・各区役所及び国際交流ラウンジへのチラシ配付、本市HPでの掲載 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入級希望者に対し、入級説明会およびプレオープンスクールを実施したことで、夜間学級の教育内容や活動について理解を深めてもらうことができた。
--	--